

地区懇談会意見集

地区懇談会開催状況

会場名	対象地区	開催月日	参加人数
神之木地域ケアプラザ	松見町、大口七島、神之木西寺尾	平成15年11月16日 平成15年11月30日	23
六角橋公園プール集会所	六角橋	平成15年11月29日 平成15年12月13日	36
若竹苑	羽沢町	平成15年12月7日 平成15年12月21日	29
反町地域ケアプラザ	青木第一、第二、三ツ沢、幸ヶ谷	平成16年1月17日 平成16年1月31日	51
新子安地域ケアプラザ	新子安、子安通1丁目、入江、神奈川	平成16年1月18日 平成16年2月1日	54
白幡向町会館	白幡	平成16年1月24日 平成16年2月7日	63
片倉三枚地域ケアプラザ	片倉、神大寺、三枚町	平成16年2月15日 平成16年2月29日	35
菅田地域ケアプラザ	菅田町	平成16年2月22日 平成16年3月7日	19
エコライフかながわ	神西、神北、浦島丘	平成16年3月13日 平成16年3月27日	42
三ツ沢中町会館	三ツ沢	平成15年12月10日	32

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
神之木 1	大口駅周辺・歩道バリアフリー化について			
	課題			
			歩道が狭い。歩きにくく、幅が狭い 段差もあり、デコボコ 車椅子・ベビーカーでは歩くのがこわい	防犯灯・バス停について住民意見の集計・署名運動等
			利用者にとって利用しやすい駅	歩道について公道か私道か調査をすることも必要「あんしん歩行エリア」の意見募集に意見を出す
			防犯灯が少ない	
			バス停がない	
	担当する部署への要望			
	< 歩道が狭いことについて >			
			時間を決めて2車線を1車線にする	
			時間を決めて一部歩行者天国にしたりする	
			車道と歩道の段差をなくす	
			車線を1車線にして、歩道を1.5倍くらいにする	
			車道をもう少し広げてでも歩道を広げデコボコをなくす	
	たまり場づくりに関すること			
	課題			
		年齢に応じた居場所の確保	利用できる空間の解放。町内会館	
		居場所を運営するスタッフの確保、養成	若者の中でリーダーを作っていく そこへちょっと背中を押す大人も入る	
			小さい頃から、地域で顔を知っている関係を作る 地域住民の声かけが必要	
担当する部署への要望				
		利用できる空間の解放。地区センター・学校・保育園・幼稚園・コミュニティハウス		
		放課後のグラウンドを利用		
		学童保育所の夜間を中・高校生に開放する		
		コンビニの中に共有スペースを設ける		
ちょっと手伝ってくれる人が欲しい				
情報提供				
		困っているときにどこに伝えればよいかわからない。	困っている人と、手伝える人の橋渡しの役割を行政が出来ないか	
		相談窓口、受け皿が必要	区では広すぎる？でも地域発信だと広がりを持ってない？	

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)	
神之木 2			ちょっとした手伝いを必要としている人が簡単に頼める場が必要(ちょっとしたというのは前もって分からない事態に直面している緊急性の高いときである)	地区センターが窓口や情報発信の役割を出来ないか	
			情報提供、情報交換できる場所が欲しい	こども110番の家の福祉版で「福祉110番の家」ができれば良いのでは	
			ボランティア活動をPRできる機会が必要。(知るチャンスも必要)		
			近所のつきあい		
			単に挨拶をしてくれるだけでうれしい	地域の中で助け合いの気持ちが必要	
			地域住民同士の関係を深めることが大切	お互い声を掛けよう!	
			両隣で声掛けが出来るような精神が必要	顔の見える関係作りが大切	
			とっさのときに頼める人間関係を作っておかないと。	子どものころから教えることが大切	
			地域での助け合いを作っていくには地域住民の意識の持ち方が必要		
			昔のような、大家族生活は減ってしまっている。いろんな世代を見る生活が減っている		
			子ども等との付き合い方も工夫すれば関係作りはできる。(変な人と言われまい)		
			お互いが助け合うことによって、自分も何かしようという気持ちを持つ		
			親が病院等で子どもを見る事が出来ないときが本当に困る		
			親が動けないときに助けてくれる体制が欲しい		
			手助けしたい気持ちはあるが		
			手伝って欲しい人がいるのを知らなかった	お互いに始めの一步がだせないんだね。殻を破ってまず話してみようよ!	
			障害のある人に対して、どう接すればよいかわからない	地域の中でも現状を教えていこう	
			声を掛けるときのエチケットがわからない。(盲導犬には触れないなど)	障がいのある方や家族の方は気持ちをどんどん話して欲しい	
			手助けしたいと思っても躊躇してしまう人もいる		
			気持ちはあるけど、助けられる自信が無い。(高齢だから、知らないから・・・など)		
		声を掛けられないことには、ある種の偏見(思い込み?)があるのかもしれない			
		若い人たちは障がい者や高齢者への関わりに積極的な気持ちを持つてる人が結構いる			
		手伝いを必要としている人は			
		車椅子で外に出られるまで3年かかった。声を掛けてもらえるのはうれしい			

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)		
神之木2			自立のための練習中などは、見守りも大切。冷たいと言わないで			
			声を掛けられるとうれしいけど、びっくりもする。それを拒否反応と捉えられてしまうことがあるが、めげずに声をかけて欲しい			
			注意しなければならぬのは			
			事故等からの安全を考えて、ボランティア保険などは必要	地域の中に沢山拠点が欲しい		
			ボランティア活動は自分の健康や資金がある程度確保できないと難しい面がある	拠点作りの援助を行政がして欲しい		
			有償で、お金のやり取りがあるからと、割り切れる部分も多い。善意だけだとお互いの気持ちが重くなることもある	ちょっとした手伝いを出来るような事業を行政が作ることができないか		
			お互い様という気持ちでやっている活動がトラブルの原因になりうるので、安全に活動できる体制が欲しい	経済的な援助が欲しい		
			要求がありすぎる方がいてその対応が難しい	行政援助でコミュニティビジネス化		
			親切から声掛け、見守りをしても、場合によってはおせっかいになってしまう			
			ボランティア活動がやりやすいような体制作りが必要			
			ポイント制などを作れば、お互いの助け合いが出来る体制が出来るのでは			
			活動してみたい方は地域に結構いらっしゃるのでは			
			こんな活動もある			
			区社協のボランティアグループ			
			有償のたすけあいグループ			
1人暮らし高齢者昼食会						
手伝いをしてくれる協力者を探す活動をしている						
着替え、包帯交換などちょっとした手伝いをするボランティアがある						
学校の送り迎えをしてくれるボランティアがいる						
介護保険がよくわからない						
広報物の改善						
<知る機会はある？>						
六角橋1			役を持っている人は良く知っている(研修などで)	自治会町内会、民生委員、保健活動推進員などで、地域に分かりやすいパンフレットを作る。予算の協力:連合や地区社協のやりくり? 区社協? 区役所?		
			身近に利用したことがある人がいないとわからない	区役所はわかりやすい広報物を作る		
			回覧板を高齢者の方は読まない人が多い	区の広報物を作る時に区民参加する		

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)		
六角橋1			町の中で話を聞く機会を作らないと。偉い先生を呼ぶより、身近な質問をしたい	地区社協や連合単位で各個人宅に配れないか		
			町の中の介護保険を知っている人は、広めている？			
			友愛などリーダーは困っている。役員以外の参加が無い			
			< 知りたい人はどこにいる？ >			
			高齢者の情報は民生委員同士の情報提供によるところが多い			
			年末助け合い募金の個人配布を復活して欲しい(高齢者把握の元になっていた)			
			敬老慰問金が無くなり、民生委員が新しい方を把握できなくなっている			
			< 広める手段は？ >			
			行政の文書が分かりにくい(用語や言葉の使い方、説明)			
			パンフレットの字が小さすぎる。沢山書いてあると読む気がしなパンフレットが欲しい			
			具体的に噛み砕いて説明しているパンフレットが欲しい			
			各家庭にパンフレットを置いて欲しい			
			町の中の情報源をどう生かすか			
			< 町の中の情報源 >			
			保健活動推進員、民生委員、友愛活動推進員は研修を受けて知っている	民生委員、保健活動推進員、友愛活動推進員、連合町内会が神奈川大学の教室を借りて初顔合わせした。その場で検討していけないか		
老人クラブ連合で研修をしている	地域の中のことは行政に任せて済む問題ではない。地域の中で解決することも必要！					
友愛の研修で使った資料が分かりやすいが、地域には回覧等していない						
役員の人を持っている資料は、他の人にも見せて欲しい						
町の役を担う人が広めたいが、他にもいろいろ役割があつて忙しくてなかなか出来ない						
町の中も縦割りがあつて、動きが取れないところがある。各委員が連携しないと。縦割りは良くない						
地域で出来ること、自分で出来ることから始める						
六角橋2			地域活動の中核となる『拠点がない』ことについて課題			
新しい土地の確保はむずかしい。(空き地がない)	情報の収集を積極的に行う					
歩いていける場所にあれば…どうしたら確保できるか？	町内配食(食事会)利用希望者の調査、人数の把握、空き家の利用。(市への援助要請)					

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)			
六角橋2			町内会館は6町内会のうち1町内会しか持っていない	子ども会, 老人会, 町内会, 商店街は無料。(町内会費を払っている)			
			町内会館がないから困る 一定の使用料が必要になる。高いという声もある	町内会館を利用して, 週三回以上の配食サービス, いきいきサロン化			
			町会の会館, 集会所など, 施設の維持費は, ずいぶんかかるものだ。例: 集会所1,000円/1区分	使用料と登録料くらいは何とかなる。空き店舗は有効に使えらると思う。			
				銭湯の休日利用			
				大学施設の利用(神大)。少し遠いのが難点			
				神橋小学校の空き教室の利用。年1回(児童と一緒にの食事会)			
				教育委員会に空き教室の利用を働きかけたらどうか			
			担当する部署や関係機関への要望				
					交通安全センター跡地⇒ぜひ, 地区センターを建設してほしい		
					自立支援, 生きがい活動事業の活用(福祉局), 市の予算化		
		プールの高層化をしたらどうか?					
		空き家の利用はできないか?(行政が買い上げる)					
		施設の改造時はバリアフリーを計画段階で考えてほしい					
		商店街の空き店舗の利用時も地域の要望をきいてほしい					
		六角橋中は遠い。神橋小学校は何とか年1回使えている。もっと利用できないか					
		デイケア施設(民間事業所)は貸してくれる。⇒無料?					
		銀行の会議室の利用⇒土日が使えない!(警備の問題)					
六角橋3			「地域のつながりが無い」をどうにかしたい~子育て支援の観点か				
			地域のつながりが薄くなってきた				
			挨拶が無い。(“不審者”などに対する防犯意識も関係している)	地域の人たちが, 相談できる・頼れる存在だということを伝える			
			近所づきあいが無い→お互い顔を知らない→(他の人の)子育てのことに関われない	地域の催し物に若いお母さんたちに参加してもらうことが大切			
			親が地域に出て行かない→子どもも出ない→大人も地域に関わってほしい	子どものときから乳幼児に接する機会を作ることが大切(長期的な取り組み)			
			地域の情報把握できない(プライバシーの問題があり, 子育て世帯の情報がない)	何かあったら連絡して欲しい(主任児童員)			
家庭も変化してきた							
		家庭の中の親子関係も変わってきた					
		今の子どもは, 親に怒られることが少ない→先生に怒られると「怖い」					

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
六角橋3	今のお母さんたちの子育てや地域に対する考え方が変化している			
			お母さんたちも仕事をしている→地域の子供会活動は出来ないから、子ども会を辞めたいといわれる	
			「遊ばせ方が分からない」「うちの子供は他の子どもと一緒に遊べない子だ」など、お母さん自身の思い込みが強く、考え方の修正が難しい	
			外で親子を見かけない。家にこもっている？→虐待など心配	
			(六角橋は)安定している地域今のところ問題は無い？	
	子育て支援の場が求められている(利用が多い)			
			遊ぼ会(あおぞら保育園)の申込者が多い、増えていく傾向	子育て情報の場として小児科、商店街を活用できないか
			つながる場所があると安心する 集まって話すだけでも安心なのは	みんなが集まって楽しく出来ることは無いかな？ →今あるものを楽しく工夫すると良いのでは(例:杉山神社のお祭り)
			一時保育サービスの利用多い ちょっとした用事で利用する人が多い →近所の人や友達には子どもを預けられない お金がかかっても、保育サービスを利用した方が気が楽	24時間保育はリフレッシュのためには使えない →電話申し込みの時にお断りしているが、お母さん自身がストレスを抱えているようなので、どこかにつなげられないか？
			リフレッシュのための保育利用が多い →ストレスの多いお母さんたち	
			道で声をかけると、若いお母さんは喜んでくれる	
			(保育園で開催した)子育ての講演会に、人づてに聞いて来る人もいた	
			乳児との遊び方が分からない人が多い 例えば、1歳児だと対応の仕方(噛みつき等)が分からない	
	地域の中で活動の場が少ない			
			遊ぶ場所が無い(空き地なし、交通センター使えなくなった)	もっと会場があったらすすく子がめ隊の活動も広がるのでは
			公園が少ない(泥遊びは保育園でしか出来ない)	関係団体が協力すればお母さんたちの輪が広がるのでは？(共催イベント、岸根公園での紙芝居等)
			泥遊びなど、思いっきり遊ばせたいが、公園などでは周りの目が気になる(若いお母さんの話)	神奈川大学の会場を活用する(地域活動には無料で貸し出し?)
			NTTのところで外遊びが出来る？	
			〇〇丁目という区分けは、住民には馴染まない	
			急な坂の上から降りないと行けない。ベビーカーは大変	
			民間の施設、ケアセンターなど利用料が高い	
		六角橋公園プール集会所前の歩道橋を改善して欲しい		

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
六角橋3			「すくすく子がめ隊」なかなか参加者が集まらない	
			六角橋で4箇所を実施(民生委員、主任児童委員協力)	回覧板を使って子がめ隊のPRをしたい
			お母さん同士の情報に(子がめに対する)誤解もある・・「まだ小さいから遊べない」「もう大きいから遊べない」	
			子どもの遊び場だけが目的ではない 一親の息抜きの場でもある	
			行政への評価	
			福祉保健センターに電話で子育て相談したら、とても親切に対応してくれた	
羽沢1			羽沢地区に何らかの新しい活動と情報の拠点をつくり、もっと活性化したい	
			行政サービスの不便さを強く感じている住民が多い	
			この地区は農業専用地域に指定されているので、開発の規制がある。	この地区内(南部地域)に、新しい拠点として「羽沢地区福祉保健サービスセンター(仮称)をつくってほしい。その中に、地区センターやプラザの一部機能も取り入れてほしい。羽沢地区の全住民の総意として考えていきたい。(全住民にアンケート調査を実施してもかまわない)
			地形も起伏に富み、景観もよいが、道路などが狭い。	
			地域が広い、生活圏域がバラバラの感じが強い。	
			道路建設で土地収用など多くの犠牲を払っているのだから、その見返りがあってもいいのでは。	
			他地区と比べ、まとまった利用施設がない。	
			福祉施設が多い地域、特に福祉の重点地区として考えてほしい。	
			既存の施設の利用を考えただけ?	
			菅田地区センター(プラザ)は遠くて行きにくい。この施設の広報紙が回覧されてくるが無駄だと感じている。	寺田倉庫の空き倉庫を借りることができれば、新たな活動場所になるかも。
区境の地域なので、保土ヶ谷区の地区センターをよく利用することあるが、「区内在住」という講座等に参加するには気がひける。	上星川小学校の開放事業ほか、地区内の社会資源で集える場として利用できそうなところをもっと探してもいいのでは。			
アウトドアスポーツの場として40軒広場があるが、地域住民にとっては交流できる場として効果的に使われている。	若竹苑のデイサービスを実施していない日に、ここを使わせてもらう。			
現在の主要拠点としての「羽沢南町内会館」は、すでに稼働率も高く、これ以上新しい事業をやるにはむずかしい状況にある。特に、高齢者の招待行事などはいつも満杯状態。天井も低いので、健康体操など軽いスポーツ程度しかできない。				

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
羽沢1			情報の収集・提供もタイムリーにしてほしい	
			行政から住民に伝わってくる各種の情報が遅い。	回覧方式だと時間もかかるし、身近なところで情報を得られるようにしたら。
			羽沢地区は、区のチベットだから仕方がないのか、このままでいいとは考えていないだろうか。	
			長年苦勞されてきた住民が多い地区。菅田地区に負けず劣らずの住民のパワーをもっているし、新しい情報に飢えている。	
			行政区画による影響をなくしてほしい	
			行政の仕事に関心はいつもあるが、行政区画があるため活動がしづらい。	区行政間の連携を密にし、不公平がないようにする。(利用サービスについては行政区をはずす)
保土ヶ谷区の住民と日頃の活動をする人が多いので、行政区間で連携を密にできないのか。	住居表示は早めに実施し誰でも分かりやすくする。、			
住居表示の見直しをしてほしい。郵便物が正しく配達されるにも。同じ姓がこの地区にはたくさんあるので				
羽沢2			地域サービスをもっと便利に利用したい	
			羽沢地区の将来を考えると...	
			子ども・孫のために、10・20年の展望をもった地域福祉保健計画を立てたい	町内会館がもっと利用しやすくなる・地区センターの利用料は無料 で、町内会館は維持管理のため有料である。このため、町内会館を利用しにくいと不満を持つ住民が多い。
			町が環状2号線・東海道貨物線・東海道新幹線で分裂してしまった。再統合する視点で、地域福祉保健計画を進めていきたい。	町内会館の利用料をもっと安くして、気軽に利用しやすくなるべきである。地区センターが無い地区の町内会館への援助を手厚くする必要がある。
			各町内会の活動は活発であるが、核になる会場が無く、連合町内会の活動がやりにくい。	
			小規模でもいいので、羽沢に地区センターが欲しい。しかし、交通の便が悪く車で移動する人が多い地域なので、駐車場は必ず確保して欲しい	
			ケアプラザ、地区センターが無いなかで羽沢地区の現状はどうか？	
			各町内会の活動が活発に行われている。	保土ヶ谷区役所で、羽沢地区の在介支が案内されるようにして欲しい。
スポーツセンター・羽沢小学校・菅田中学校が、活動場所としてよく利用されている。	神奈川区民の利用の多い他区の駅に、神奈川区の広報を置いて欲しい。			
羽沢南部は、区境で羽沢地区の施設が遠いため利用しにくい。保土ヶ谷区の上星川小学校が近くにあり利用も可能だが、区外のため心情的に予約を取りにくい。南部では、ふれあい広場も利用されている。				

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
羽沢 3	町の中の交流をどうしたらよいか			
	「交流のある地域」のイメージ			
	昔のような付き合いが出来るしょうゆの貸し借りなどまで出来る			
	交流以前に連帯感があった。行事は全員参加だった			
	知らない家は無かった			
	30年ぐらい前は若い人も近所づきあいは無理なく出来ていた			
	「地域」の現実			
	近所づきあいの仕方が変化している？時代の問題？近所づきあいが無くても困らない時代。異なる世代との同居も煩わしいと思う世の中？			
	個人主義、共働き、親子が顔を合わす時間も無い。			
	隣近所に声を掛けられる時間が無い。(帰宅時間が遅いなど)			
	回覧板をまわすのに1ヶ月もかかる。			
	昼間働いていると地域の行事に参加したくても出来ない。			
	興味のある行事には参加してくれる。			
	よく見かける人に声を掛けると不審がられる。			
	目が合っても挨拶が無いことがある。			
	生まれたときから住んでいるから、挨拶する。			
	新しく来た人との付き合いが生まれにくい。			
	家庭内で近所づきあいを教えない？			
	町内会費の理解を得るだけでも大変。			
	町内会のことは役員任せで協力が少ない。			
時代に合った地域の交流とは？				
町内会の役をした人は協力的になってくれる。				
男の人は町の中に役割が無く、なかなか出て行く機会がない				
もっと交流を増やすには？				
集まれる場所が欲しい。→場所さえあれば交流が出来る？				
祭りは人が集まる。→集まるだけで交流が出来る？				
子どもの学校等の付き合いを通じて、近所とつながることは出来る。				

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)		
羽沢3			近所づきあいが無いと困ることを、知っている人が伝えていかないと。			
			近所同士の情報交換が出来たら、いざというとき助け合える。			
			若い人のたまり場がないから、作って、親ぐらいの世代の人が管理する			
			働いている人でも参加したい人がいるが、どこで、いつが分からないのでは。			
			参加してもらえる町になるには			
			町内会館の催しには結構集まる。→PRの問題だと思う	回覧板の枚数を減らす。(警察・学校・区どれもボリュームが多すぎて見切れない)		
			若い世代は回覧板は見ないので？	回覧板の要旨が家に残るようにダイジェスト版を作る。		
			回覧板は世帯の一人しか見ないことが多い。	ご近所情報を載せる。(不用品交換、犬の散歩のお手伝いをしてくれる人募集、など)		
			学校に回覧板の内容を掲示する？そこまで学校に頼めない？	若い人向けの回覧板を若い人と作る。		
			掲示板はバス待ちのとき少し見るくらい？			
情報の発信は口コミが多いのが現状？						
若い人の情報源は全国の情報誌						
若い人向けの行事を増やす。世代の違う人ももちろん参加できる。						
反町1			情報が得られる・相談ができるまちづくりのために 地域の中での雰囲気づくり-個人個人が主体となって			
			情報の流通が大切。困った時に情報を探すのはとても大変。	近隣との交流ができる関係づくり(無関心な人を一人でも減らす努力をする。)		
			非常にマンションの多い地域で高齢者・独居の人が多。	町の中でお互いに声を掛け合う雰囲気づくり		
			老人にとってはデイサービスの利用法がわからない。(=情報が入ってこない。)	困っている人に自分から積極的に接する。		
				困っている人が内にこもらず外に目を向け、口に出せるよう、本人の興味あることや地域の様子などの情報を流す。		
				相手のペースで時間をかけてゆっくりと情報を流し続ける。		
				情報伝達手段として回覧板を利用。		
				情報を得る利点をピアーアールして、自治会・町内会への加入を勧める。		
				町内会活動を住民に見えやすくする。(お互いに感謝・労う関係づくり)		
				同年齢の人が訪問や電話をする。		

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
反町1			地域の中での雰囲気づくり-地域の役割分担を進めて	
			人は困った状況になると閉じこもってしまう傾向がある。もっと地域に開かれるとよい。	一人暮らし高齢者への民生委員の声かけや訪問が必要。
			団地の高齢者増えてきているが、皆が知り合えるとよい。	民生委員、保健活動推進員が同性だと心が開きやすい。
				(民生委員として)相談を受けた場合、即行動を起こし対応する役を見極め、行政などにつなぐ。
				ボランティア不足の場合、探している人の方でも情報を提示する。(口コミやこえかけをどんどん進める)
			地域の中でのたまり場づくり--行政等の支援が必要	
			高齢者が日常的に集まれる場所が欲しい。	団地の集会所を町内会館として建て替えて、お年寄りのたまり場にしたい。
			近所づきあいが薄い。	(障害者施設の)地域交流室を地域の方に自由に使ってもらう。また、その存在をPRする。
			お茶を飲みながら集まれる場所が欲しい。	生活SOS拠点作りをやりたい。(反町駅に)
			比較的元気な高齢者が集まれる場所が欲しい。	補助金の研究をして、バリアフリー、ユニバーサルトイレや食事作りもしていきたい。
				インターネットなども含めた情報拠点にもしたい。
				集まるのは苦手でもインターネットが得意な高齢者もいる。(から、その人達に頼めば一石二鳥)
				(ボランティアによる)高齢者や障害者向けのインターネット情報検索サービス窓口があるとよい。
				お年寄り子ども・障害者など様々な人が出会えるサロンのような場が欲しい。
				小学校などの既存の施設を利用して、たまり場を作る。
				人が集まる所(病院・スーパー・公園など)に簡易相談窓口を設置する。
			行政や関係機関への要望	
				まちの中の様々な課題を解決していくためには、コーディネート役(コミュニティワーカー)が必要だが、これには有償の専門家が望ましく、その育成が課題。→行政の力が必要。
				(一人の障害者のために、一人の高齢者のために、その家族のためにという)専門家同志のネットワークも大切。→行政の協力が必要。
				福祉と医療の連携が重要。(特に医者に福祉のことを勉強してほしい)
				在宅介護支援センター・民生委員・区役所(福祉課)などが、地域の高齢者の実態を常に理解しておく。
				(独居・閉じこもりの人などに)個別訪問や安否確認電話などで(必要な)情報を提供する。

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)	
反町1				地区社協の活動が一般市民には分かりづらいことが多いので、もっとわかりやすくPRする工夫を。	
				学校での活動に福祉のことを取り入れてもらい、子ども達に関心をもってもらおう。	
				行政の土日ホットライン(福祉保健に関する電話よらず相談)を開設して欲しい。	
				地域ケアプラザなどの施設を入りやすい雰囲気にしてほしい。(表に喫茶店を併設するなどハード面での工夫を。)	
				町内の夜の照明が薄暗い電灯だけだと女性の一人歩きが危険なので、もっと灯りをつけてもらおう町内で要望	
反町2		障害のある人をもっと気にかけて欲しい～どうしたら出来る？～			
		どこにいるの？その情報は？			情報を集める
			町会長、民生委員等町の役を担う人は把握しているが、他の人は知らない	防災のために情報を出してよいかどうかの全数アンケートを行政で出来ないか	
			町会役員をしても、口コミで情報を得るのみ。集合住宅はそれも把握しにくい	地域の方々(民生委員、町会等)も情報を積極的に集められないか	
			人数が把握できてもどこにお住まいかまでは分からないし、情報の扱いは慎重にしないと(悪用を避ける)	町会の行事に障害者や1人暮らしの人が参加できるような工夫も必要	
			民生委員になって、町内を把握しようと歩いたら不審がられた		
			外出する人は分かるが、そうでないと分からない		
		情報収集は誰がどのように？			情報はどこにあれば？
			神奈川県心身障害者団体連絡会でH6の阪神大震災後に、防災に備え地域の役員さんに名前を出して良い人のアンケートをとった。区内6000人障害者手帳を持っている人がいるが、同連絡会加盟は17%。結局100名分の名簿は出来た	防災拠点や区役所には名簿があるが、いざというとき行政の到着を待つ余裕は無い。地域の中で、把握しておく必要がある	
			障がい者手帳を持つ人の情報は区福祉保健センターが持っているが、プライバシーの問題があり、全名簿を公表することは出来ない		
		プライバシーもあるけれど			
	そっとして欲しい、障がいを隠したいという人もいる	日ごろの近所づきあいでネットワークを作っておかないと。災害時は数時間が勝負			
	外見上障がいと分からないと、周りの目を気にして、優先席に座るのさえ躊躇する人もいる	障がい者、高齢者も自覚を持って、日ごろの呼びかけに応じて欲しい			
	障害者も高齢者も普段の町会などの呼びかけに応じてくれない。日ごろのネットワーク作りの意識が必要	災害時防災拠点に集まってから、おんぶ紐を持って逃げられない人の家に助けに行ったという話を聞いた。知っていたから出来たこと。隠しすぎるのは良くない			

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
反町2			高齢者も防災では同じ	地域の中の防災組織が必要
			障害者に限らず、今病院は入院期間が長くても1ヶ月 在宅療養中で外に出られない人は沢山いるはず 変化する情報は地域の中でしか把握できない	第一歩は地域から。できることから取り掛からないと、いつまでも変わらない
			高齢者のふれあい訪問対象は今5000人いる	昨年錦台中学校で障がい者合同防災訓練をした。まだ一箇所だがこれも一歩
			老人会では1人暮らし・虚弱な人の把握はある程度できている	
			施設や作業所と地域の関わり	
			YSK作業所には、現在20歳から60歳の方14名が通っている いろんな障がいの方がいる 皆、区福祉保健センターからの紹介	施設と地域が手をつなぐには、運営委員会に住民を入れるなどして、日ごろから互いに理解する場を設けないとうまくいかない
			かながわ福祉活動ホームもいろんな障がいの方が通っている 区福祉保健センターからの紹介と、通りすがりに知ったという人もいる	日ごろの連携があればいざというとき施設の人を助けることも出来る
			福祉活動ホームでは近くの小学校や専門学校の生徒が手伝いに来てくれたりする また、不登校の生徒が手伝いに来て自分も元気になったこともある	
			町内会が行事に声を掛けてくれるので溶け込みやすい。	
			新子安1	
地域防災の組織づくり				
住民の危機管理意識の醸成	町内会への呼びかけ			
町内会の防災体制	町内会の班分け			
既存の組織の内容がわかりにくい	防災リーダー育成			
	近隣での機材保管場所確認			
防災情報の共有化				
災害時の情報収集・提供方法	高齢者巡回訪問等による情報把握			
	近隣の顔見知りをつくる			
	町内会が防災情報を流す			
	防災マップの作成			
防災訓練の実施				
参加者が限られている	町内会の班単位の実働隊			
	マンションの事前対策			
	地域で協力できる体制			
防災意識の啓発と普及				
防災の意識化	防災ボランティアの組織化			
	各家庭に於ける常備品準備			
その他				
建物耐震補強対策の合意	協議			

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)	
新 子 安 2		若者の地域参加			
		この話し合いにおける「若者の定義」			
				地域に関心を持ち始める次代の担い手40代	定退職前に、地域に出ないと、その後の活動がむずかしい
		町会組織の改革			
				後継者不在、役員長期化	役員は後継者を育てるのも任務と心得る
				役員以外の人参加しにくい	住民が楽しんで参加できるような工夫
		行政への要望			
				イベントのお金がない。	役所主催の似通ったイベントを減らし、その予算を地域に回す
				行政の下請け化で動きがとれない	役員の任務を分散して、より多くの人に担ってもら
				役員の任務が多すぎ、重すぎ、交代する人がいない	
		地域と子供会・生徒会との交流			
				子供会・生徒会の役員当番の任期が終わると、活動も終わってしまう	子供会等を通して、年に数回行事を開催すれば、親同士の交流が生まれる
				高齢者の食事会に子供会・生徒会の役員も協力している。	役員当番を担うことからボランティアになっていく人もいる
				1回でも行事に参加すれば、役員からの声かけがしやすくなり、次の活動に結びつきやすくなる	幼稚園・保育園・学童クラブなどと地域との接点を見つけていく
					小学校の課外授業として、高齢者のゴミの分別への協力などできないか
		地域と企業・大学との交流			
				町内の各種イベントに若者の参加を呼びかける	イベントの企画や地域への周知方法など、近くの大学と連携し、大学生のお知恵拝借
				町内の壮年ソフトボール同好会、まつり同好会には若い人も参加しているが、それと町会活動とは結びつかない	地域を広くとらえ、企業や郵便局などにも協力してもらう
				大学生が地域の活性化に協力しているところもある	遠くへ通勤している人は地域の活動をする時間がない。自営業など地元で働いている若者から活動をはじめていく
				企業が社員の地域参加を促進することが必要	企業に対し、地域からも協力を呼びかける
		若者からの情報の収集			
				若者の考え方や地域への希望など、パソコンのメールで受信すれば把握しやすい。	市や区のホームページから、地域を選択して書き込みできるようにする。
				メールの受け手の拠点を設けないと、受信してもばらばらになる。	受けての側の話し合いの場を設定して、定期的に回答する。情報の受信先は有償として、協力。
				メールを受信すると、すぐに回答する必要がでてくる。	郵便局に町会用の意見回収ボックスを置く。
				地域の若者が自分の地域の情報にアクセスしてくるか疑問。	
				アクセスしてくるのは、地域を知らない離れたところの人ではないか。	

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
新子安2			情報の発信	
			行事に関するPRを工夫して人集めをする。	住民へのアピール方法には口コミが有効。
			郵便局の利用者は高齢者が中心なので、若者へのアピールは弱い	銀行や郵便局に地域の情報板を設置。
				郵便局に行政から依頼されている文書だけでなく、地域の行事などのお知らせも置く。
			地域の底力	
			子どもたちを守るため、地域の底力の必要性を訴え皆で協力	通学路に通勤途中の父親など、おとなが付き添えば安心。
			子どもたちに校門のところで「おはよう」コールを実践している人がいる	「おはよう」運動を広げていく。
				日常生活の中でできる活動を工夫して、まちの安全・安心にむすびつける。
				近所の子どもたちへの目配りをする。
			防犯	
ゴミの分別をせず、ポイ捨てしてあるものは誰が整理するのか。				
ホームレスの人が公園に寝泊りしている。				
夜間、女性の引ったくり被害が数件あった。				
新子安3			地域における交流を進めていくために	
			高校生との交流	
			発表の場がない	高校生の発表の場が必要
			コミュニケーションの方法がわからない	同じ場面でふれあっているとだんだんわかってくる。
				地域作業所の職員の連合会で高校生に話をしてもらったらどうか。
				実習は二日目に慣れてくる、慣れることが重要。
			マンション住民との交流	
			地付きの人よりマンション入居者(共稼ぎ)の方が多くなっている	マンション住民に対して情報を発信・提供していくしかない
			保育園との交流	
			具体的な地域の状況(老人・子ども)をつかみたい	保育園として、交流(行事への呼びかけ)
作業所とも交流ができればよい。	ふれあい祭り(保育園)で地域との交流をすすめたい			
子どもは顔見知りになるとよく話しかけるので、保育園の散歩はそのものがボランティアである。	出前保育をしてもよい			
小学生と高齢者の交流				
小学生と高齢者の交流はとてもよいので継続して欲しい。	小さい子どもさんを連れた親子グループで部屋の利用があり、そこで高齢者の知恵袋や、子どもと高齢者の交流があるとよい			

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)		
新子安3			一人暮らし高齢者の食事会に小学生の1クラスを呼んで歌やゲームをして喜ばれた。	ボランティアグループ「鍋の会」と小学生との交流。		
			ケアプラザに小学生に来てもらった。	運動会ならもう少し多く参加できる。		
			ふれあい給食会に招待されてもしゃべれないからと断る人も多い。	呼ぶ側、呼ばれる側とも予算に限り、もっと予算があれば。		
			町内の参加枠が少ない。誰が行くかでもめる。人選がたいへん。	小中学校ではボランティア教育が充実しているので、子ども達の意識は高い。彼らが育っていくから長い目で見れば若い人の参加がでてくる。		
			なるべく相手に迷惑をかけないように人選している。	ボランティア学習はとても大切。若い人は育っている。		
			子どもに話ができる人、できない人がいる。子どもはいろいろ聞きたがる。話せる人を人選する。			
			サマースクール(社協)は有効、社協の活動の成果。			
			高齢者は子どもとふれあうのが好き。			
			子どもを呼べるような余裕のある場所(会場)が町内にない。身近なところでやりたい			
			作業所との交流			
			地域は住んでいないとわかりづらい。	作業所からのさらなる情報発信		
			町内の行事はわかっても、入っていつてよいかわからない。			
			精神障害はささく交流が難しい。地域の役に立ちたいが、糸口が見えない。			
			地域に溶け込むのは10年単位である。			
			昔は浮浪者が結構いたが、最近の近隣公園は環境がよくなっている。			
			地域の交番との交流			
			交番に誰もいない。担当区域外でも受け付けて欲しい。	役所を通じて警察に伝える		
			県警に直接連絡したらすぐに対応してくれた。駐在は出払っていることが多い。			
			最近子安では置き引きが多い。			
			違法駐車で救急車も入れない。取り締まりをしてくれない。			

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
新子安3	頑固、我が儘な一人暮らしの高齢者との交流			
	かたくなに閉じこもる老人をどうするか			高齢者のたまり場が必要。
	介護の認定をすすめても受け入れない頑固な人で、他人に家の中を見られるのが嫌だという気持ちが強い。			時間をかけて話していくことが重要。
	高齢になって一人暮らしになってから、だんだん人つきあいが億劫になり、家から外に出たがらなくなって日常の様子がよくわからないで困る。			何度でも声をかけること
	高齢者のゴミ出しでルールが無視される。隣近所との間での人情味に欠ける。			
	裕福になるほどわがままになる。一人暮らし――勝手者。			
	スペースの拡張を考えない昔の区画整理の仕方が悪かった。若い人が世帯を持ってよそに行ってしまう、高齢者単身世帯が残る。			
	マンション建設で少し回復しているが、若い人が居ない、学校も人数減少。			
	高齢者の外出は心理的負担が大きい。何かしなければと思ってしまう。			
	コミュニケーションをどうとるか			
	地域での細やかな人々のつながりはどうしたらできるのでしょうか。			あいさつ運動
	町会の動きとか働きが回覧板で見る程度しか伝わらないが。			コミュニケーションは世代の差より個人の問題、お互いに好奇心をもつことが話の糸口になる。
	子安は下町、コミュニケーションは取りやすい地域。			各グループのコミュニケーションは取れているので、もっと全体的な交流が必要
	エレベータ周辺の掃除では地域の人からよく声をかけられた。			
	口ではボランティアというが、すすんでやっている人は少ない			
	文化区民会議であいさつ運動を実施している。			
	ヘルパー(若い人)と世話を受ける人(高齢者)の価値観の違い			
	世代交代を考えていくことが必要			
	地区の中に参加してくれる若い人がいない			ベテラン主婦と若いお母さんの交流があるとよい。
	若いお母さん(40代、50代)が参加してくれるとよい。			20代前半の学生さんは集められる
	若い人は忙しそう。			高齢でも子育てが終わって元気な人にはボランティアをしてもらえばよい
働いている女性が多く、専業主婦の若い人がいない。				

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
新子安3			15年経過して、皆60代、ベテランだが、ボランティアも世代交代が必要。	
			ボランティアをする人は身も心も若い。過去の経験が活かされている	
白幡1	地区センターの運営について			
	住民のための地区センターとなってほしい			
			従来の地区センターのイメージはとても硬いので払拭する。	町内会館に運営委員会への要望等を入れる 投書箱を設置する
			各町内はまとまっている。センターを中心に白幡全体がまとまるとよい。 (センターを中心にした輪が白幡全体に広がる感じ)	
			運営委員に伝えたい地域の思いを出しやすい方法を考える。	
	防災拠点としての機能を備えてほしい			
			災害時の緊急対策場所としての役目を果たす。 (地域の防災機能の一部を担う)	訓練に役員以外の人たちがもっと参加するような仕方を工夫する
	運営委員会の委員に若い世代の参加を考えてほしい			
			大人の作ったルール(利用方法)にはめ込む時代でない	運営委員の中に中・高・大学生など学生を入れる
	地区センターでは参加できない人がいる			
				町内会館の活用を図る
				区内NPOを活用して町内会館で地区センターが行なう事業を代行する
				既に活動している組織人と事業を活用する (補助金による充実など)
	世代交流のできる場や事業を考えてほしい			
			中学生でもできるボランティアの場所が増えると参加しやすくなる。	高齢者と小中高生等を交えた行事やボランティア活動の機会を提供する
			年齢を超えた交流の場となる機会づくり(イベントでもよい)。	
	子どもたちの集えるフリースペースを設置してほしい			
				卓球などが自由にできるスペースを確保する。
				子どもへの専門指導員が常駐するスペースとする。
				子どもたち専用の時間帯を設ける
利用方法や基準が使い易いものになってほしい				
			地区センター館内での飲食についてルールを決めて取り入れる	
		空き室の状況がすぐわかる方法があるとよい		
		当日利用も含め、空き室をすぐに利用できるシステムがあるとよい	連合単位でのプログラムは優先的にし、参加者を増やすようにする	

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
白幡1	行政, 関係機関への要望		福祉保健センターの出張窓口を設置してほしい	
		ミニ福祉保健センター的役割を地区センターが担う。 例: 相談日を設置する。月1回, 週1回など		
		福祉保健センター的な(相談窓口)会合日の特設する	⇒運用による区の出張窓口の設置。設置日は優先利用。 ⇒区役所の職員が出張してきて相談対応する。 ⇒当事者が地域で区の専門家等に相談できるようになる。 ⇒当事者にとって時間の短縮にも繋がる。	
	バスと道路環境について		行政, 関係機関への要望	
		31番バス 循環→往復の実現		
		朝夕, 休日の運行本数を増やしてほしい		
		雪の運行中止はどうしているのか		
		地区センター近くの交差点に視覚障害者対応の信号を設置してほしい		
白幡2	子どもや若い世代の活動の場づくり		ボランティアの係わり方	
		団塊の世代がこれからリタイアする。彼らの力・知恵をどのように地域に取り込むか	ボランティアを募集する時、具体的な作業の内容・時間など細かく情報を提供すると、参加者が増える	
		若い世代も休日などには積極的に活動して。	催し物等のボランティアの参加者には、次の参加につながるように関係づくりをしていく	
		中学生をもっと地域のボランティアに参加させたいが、塾・部活動などで忙しく、時間の余裕がない。	ボランティアをしたい人としてもらいたい人の橋渡し役を作る	
		中学生もいろいろボランティアしたいけれど、どのようなところで募集しているのかわからない	中・高生のボランティアに学校が何らかのメリットを与えたらどうか (アメリカのように単位を与えるとか)	
		中学生もボランティアしたいけど、内容や時間等がよくわからず不安	地域の活性化には「自分の地域を愛せる」青少年を育成するのが鍵	
			ひとりひとりがもう一歩ずつ前に進んでいく	
	子どもたちの学習サポートボランティア			
		授業についていけない子どもたちを地域でサポートする。	目で見て伝わるPR紙・チラシの上手な作り方の学習会を実施してほしい	
		中学校では地域の学習ボランティアに、教室での学習の補助をお願いしている	今回の懇談会のような参加者ひとりひとりの意見を拾い上げることのできる方法についての学習会を開いてほしい	
	中学校の学習ボランティアの人は、積極的に生徒に話しかけてくれ、質問しやすい。			

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
白幡2	活動の場としての地区センターへの希望			
	地域にできる地区センターでもいろいろな人との交流をしたい	フリースペースを増やし、人と人との交流の場にする。		
		体育館を利用した、地域の交流事業を増やす。		
		外のスペースに気軽に立ち寄れるテーブルデッキを設ける(管理を工夫)。		
		「もちつき」「豚汁」など「食」は人をつなげる。利用方法に柔軟な対応をしてほしい。		
	地元の広い遊び場の確保			
	子どもたちが安心して遊べる場が少ない。	地域にも利用できる公園はある。公園マップを作って情報を流す。		
	中学生も外遊びしたい。バドミントンなどができる広い場所がほしい	白幡東町には公園がない。団地の広場で 住人以外の子どもも遊べるようにしてほしい		
	地域にバスケットゴールなどのある場所ができ、中学生でも気軽に利用できるとよい	すくすくかめっ子のような事業に町内会館を開放し、若い世代を地域につなげていく。		
	町会で子ども向けのイベント(祭・餅つきなど)を行っているが、参加者が少ない特に若い父親の関心が薄い	少子化で子ども向けの行事ができにくくなっている。身近な関係者で何をやるのがよいか検討する		
	自主グループで、「白幡の森で遊ぼう」という活動を月2回実施。屋外での自由遊びで、参加した子どもはいきいきと目を輝かせて遊んでいる。	民と公のパートナーシップで、乳幼児から青少年までの豊かな育ちをはぐくむ「プレーパーク(冒険遊び場)」が常設できるとよい。		
	外遊びしたいけど場所がないからしないのか、塾や勉強に忙しくて遊べないのか、子育て中の親の考えを聞いてみたい	プレーパークへの専門のプレーリーダーの配置があるとよい		
		白幡小学校にコミュニティーハウスなど、年代を超えたコミュニケーションの場が必要		
	子どもたちを守る・声をかけあう防犯対策			
	小学校のはまっ子スクール、学童保育では、子どもたちの帰宅時間が遅く、帰り道の安全が心配。	道を明るくすることが犯罪防止につながるの考えから、町会では街灯の設置を心がけている。		
	塾帰りなどで、人通りの少ない夜道はとても不安。	学校への不審者の侵入を防ぐのは物理的にはむずかしい。地域の人の日常の「目」に期待する。		
	地域で犬の散歩中に、出刃包丁を持った男に出会った人がいる。警察に連絡し、パトロールをしてもらったが、おとなでも物騒。	通学路の途中でも逃げ込める家・場所の確保。		
	変質者対策は人をよく見きわめることが基本。	不審者を見たらまず通報。		
	被害者も加害者も低年齢化。幼児期に親がどう接するかが問題か？	犯罪防止には近所同士が顔見知りになることが有効。		
	学校では侵入者対策として校門を完全に閉鎖するのは困難。防犯カメラを設置しても、常時監視することはできない	道路に安全歩行レーンを設置。		

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)	
白幡2			地域の歩いていける所に相談機能を		
			地域に介護保険のみならず、総合的な保健・福祉の窓口が必要。	地区センターに地域の相談センターを設置してほしい。	
			安全パトロールを兼ねた高齢者移送サービスのような車両の運行が必要。	地域の人材マップ、支えあいマップ等を作成する。	
白幡3			高齢者への情報の伝え方		
			広報物にカタカナ文字が多くて理解できない。		
			高齢者に対する防犯防止のためのPRをどのようにしたらよいのか。		
			ダイレクトメールと大事な情報が一緒にポストに入っている。		
				回覧板の工夫	大切な物は各戸一部ずつにする。
					回し方を工夫する。
					顔をみて渡す。
					回す人が優先順位をつける。
				個別又は一人一人に伝える	選挙公報は個別に配る。
					自治会未加入の人への情報は手渡し、声をかける。
					高齢者への防犯のPRは多くの人に行き渡るように一人一人に直接話して伝えていく。
				ふれあう場で情報を伝える	お茶のみ会をする。
					楽しみのある会で防犯の話をする。
					地域の人とお互いのできるだけふれあうようにする。
					何かの催しで高齢者との話し合いをもちたい。
					お互いの意志疎通をはかるため、2ヶ月に1回食事会を催す。
					お風呂場で集まる
				ふれあい訪問で伝える	ふれあい訪問活動の充実。(訪問員を増やすなど)
					世間話の中で伝える。
					受け入れてもらえるように関係づくりをしながら訪問する
	隣近所とのふれあい、声かけをすることが重要	マンションのオーナーから情報をもらう			
		困ったときに相談する窓口が知られていない。			
		白幡の地域の中での情報窓口がほしい。			
		ボランティアがほしい。			
		情報窓口を作る	地区センターの中に情報窓口を作る。		
			ボランティア窓口を作る。		
			元気な高齢者にてつだってもらう。		
			有償でボランティアをしてもらう。		
			コーディネーターが必要ではないか。		
			運営をどのようにしていくのか、町内で分担していく方法もあるが...		

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
白幡3			担当部署や関係機関への要望	
			広報物などはわかりやすい文章を使ってほしい	理解しやすい簡単な言い回しの文章で書いてほしい。
				小学校高学年位にわかる文章にしてほしい。
				誰にでもわかるやさしい言葉に言い換える。
				対等な立場での文章で、関心を持ってもらうような文章で書いてほしい。
				カタカナ文字はできるだけさけて誰にでもわかりやすい言葉を使う。
				全部読まなくてもわかるように書いてほしい。
				防犯にかかわるような情報の文は、多くを書かずに目に留まるような形で表現すると良いのではないか。
	絵や漫画が入ったチラシを作って置いてほしい。			
片倉1			地域の交流について取り組めること	
			回覧板が一ヶ月かかる・まわすとき対話がない	
			“地域のわ”を持つのに交流の場を増やせないか	
			戸外での異世代交流の場が少ない	
			回覧板は手渡しをする	
			挨拶・声かけ	挨拶はまず自分の家庭からはじめる
				近所の人には声かける(いやがる人がいるかもしれないけれど)
				朝の挨拶は声かけやすい
				町内で決めて町内だよりで挨拶運動をよびかける
				住宅街で知らない人に声かけるのは勇気いるが、悪いことしていないのでできるのでは
				見知らぬ人にも「何かお探してしょうか」と声かける
				隣の人と知り合いになっておく
				近隣仲良くする(例えば:花見など楽しいこと計画して知り合う機会を作る)
				隣同士一線をこえない節度あるつきあいをする
				近所の人へできるかぎり声をかけて知り合い助け合いの輪を広げる
			交流の場づくり	自分自身地域の集まりに顔を出す。後々つながってくる
				交流の場の新設には時間かかるので、今ある場で何ができるか考えたい
				屋外“だど”交流しやすい(犬連れて人など声かけやすい)
				うさぎ山公園で子どもたちと幅広い年代の人達との交流をさかんにした
				ケアプラザの活用をしやすくする(地域の団体で無断キャンセルする団体がある。もっと有効利用したい 例えば:子育て中のお母さんが自由に使える日を設ける)
	西町の工務店が地域交流のもちつき、夏祭りを子ども会と一緒にやっている 通りがかりの人参加している			

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
片倉1			痴呆の人が増えているので、民生委員だけでなく、近隣のネットワークがとれないか	
			見守りと近隣のネットワーク作り	痴呆の知識を持つ
				近隣の実態を知る
				ケアプラザ・民生委員等の見守り強化
				民生委員は担当の名前と電話番号を手渡しする
				民生委員がいくら努力してもそれだけでは住民全員をカバーできない
				地域が見守りをするしくみをつくる
				一人暮らしの見守りネットワーク作り
				情報の伝達と見守りは、町内会の組長単位でやれるのでは
				組長は1年ずつの持ち回りで、受け持ちは10～30軒程度なので細かな配慮ができる
				「助けてほしい」ことを発言して伝えることも大事(知らないとは協力できない)
				自分もいずれ見守られる立場になることを意識する
				新住民や障害者・高齢者の方々と知り合えるチャンスをのがさず情報発信する
				泥棒被害にあった方が町内会に相談、町内へ注意喚起のニュース回し、暗い所に街灯をつけた
				街灯代が町内会から出ていることを今まで知らなかった
地区懇談会の感想				
	女性 は地域のことをよく知っている。 男性 はもっと関心をもつべきだ			
	地域の交流について、どの程度必要性を感じているかは人によって差がある			
	町内の会合に誘ってきてもらうと考えていることをわかりあえる			
地域と若い世代との交流のしくみづくり				
学校の活動に対する地域の支援				
片倉2			小学生のグループが放課後、総合学習の成果を地域に発表したいと思ったが、受け入れ先がなかなか見つけられなかった	子どもたちの受け入れができる場所の情報を学校に提供する
			中高生を町の中で育て、地域へ取り込むという意識からの組織の見直し	六角橋中学校の福祉委員会活動への支援(古切手収集の呼びかけ・収集の地域拠点)を検討していく
			ケアプラザでは地域の学校の総合学習の手伝いをしている	地域の子供会は小学校を卒業すると終わり。中高生になってもつなげていく組織づくり
			ケアプラザでは学生の職業体験を受け入れている	

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
片倉 2	地域の情報をまとめる			
	地域から学校への積極的働きかけ			
			PTAの立場としては、学校に対しては消極的にならざるを得ない	地域の情報をまとめて学校に配付する
			地域から学校に働きかけるのはむずかしい	学校は地域の情報をうまく活用する力をつけてもらいたい
			学校から町会への依頼があれば交流が深まる	子どもたちにも地域の情報を提供
			学校と地域がつながっているところもある(松本中学校)	学校から地域への働きかけが必要
			学校から言われれば子どもたちは動く(親から言っても動かない)	自治会に青少年の育成を担うリーダーが必要 青少年指導員の役割か
			中学生は地域への期待は持っていない	
			団地内では青少年・中高年・高齢者それぞれのクラブ活動が盛ん	
			クラブ活動の参加は限られた人	
			団地のお祭は全員参加、皆が出てくる	
	要望			
			学校から地域に働きかけるよう、行政の支援が必要	
			青少年の育成を担うリーダーの育成支援	
			地域の情報をまとめる拠点が必要	
	誰でも参加しやすい環境づくり			
			学校の文化祭等で、障害がある人と子どもたちとの交流を図りたいが、施設にバリアがあり、車いすでは行かれない	子どもたちと障害がある人が一緒に学ぶ機会があるとよい
			障害がある人が地域に出て行くのに最大のネックは「トイレ」 車いすでは使えない、介助者がいない	障害がある人の外出時の介助者がほしい
	要望			
			学校の施設のバリアフリーが必要	
			「トイレ」のバリアフリー	
	子どもたちの自主性の尊重			
			杉並区には中高生センター「ゆう」がある。青少年のたまり場、運営も子どもたちが係わっている	「うさぎ山」のような冒険遊び場に中高生もきてほしい
		「他人からどう見られるか」を気にする中学生。子どもの遊び場で遊びたいけど遊べない	中学生は恥ずかしい年頃。地域への自発的参加はむずかしいので、イベントの手伝いなど大人が頼ってみてもいいのではないか	
		中学生は部活の後、話をする時間を欲している。		
		中高生に思いっきり体を動かせる遊び場の提供も大切		

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)	
片倉 2			片倉うさぎ山公園」では高校生・大学生も来て小さな子どもたちとのふれあいがある 子どもが好き、遊ぶのが好きでつながっている		
			施設管理の見直し	中高生は学校内にあるコミュニティハウスには行きたがらない 放課後には学校から出たいのではないか 大人の中に入るのには抵抗がある	今ある施設の受け入れ体制の見直しが必要
			中学生と利用可能施設の時間帯が合わない	地域の発信基地になれるしくみづくりが必要	
			要望	地区センターの中学生の利用時間(18時まで)を延長してほしい	
			ケアプラザが中高生のたまり場を提供できないか		
			地区センターが青少年の居場所としての機能をもてないか		
			地区センター職員が青少年と大人をつなげるコーディネーターの役割を担えないか		
			まちのコーディネーター設置の方向	青少年指導員の役割が果たされているか	青少年と大人を結びつける「まちのコーディネーター」はボランティアではなく、専門職としての位置づけが必要。
			青少年と大人を結びつけるのはすべてが「人」にかかっている	青少年の心理をきちんとつかんでいる人が必要	
			保護者は働いている人がほとんどなので期待できない	一緒に考えてくれる人	
				エコマネーで人と人をつなげる	
				子どもたちのボランティアに対し、エコマネーを発行し、地域の商店でちょっとした買い物をしてもらえば、地域の活性化にもつながる	
			要望	地区センターなどの職員がコーディネーターとしての研修を受けられる体制が必要	
			ケアプラザでも研修・講座を開く		
			コーディネーターを育てるための行政の支援が必要		
行政は横のつながりを持って支援してほしい					
片倉 3			「チョボラネットワーク」の形成に向けて		
			【私のチョボラ】私に出来ること、出来そうなこと		
				配食サービスでの情報集め	
				配食サービスの仕組みの利用はできそう	
				花見に行きましょう	
				ハイキングに行きましょう	
				誰とでも会話することを好む 隣近所の人と協力することに違和感がない	

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)	
片倉 3				世界の平和に関心がある	
				アウトドアの手伝い(ウォーキング, 屋外バーベキュー)	
				買い物など重い荷物を持つ	
				電球の交換	
				町会には一人暮らしの高齢者のための電灯係があります	
				買い物や外出の補助(歩行又は車移動)	
				お買い物の手伝いをする	
				運動については, 私は毎日朝実施し健康を大切にしています	
				体操や走り方を教えることができます	
				話し相手, お話を聞く	
				(一緒に)歩きましょう	
				食事づくり	
				【声をかけよう】(チョボラネットワークの入口として)	
					一人暮らしの高齢者に毎日声をかける
					声かけ運動を近所に住んでいる人からはじめます
					企業OBの地域でのグループを作る(ボランティア希望者いるのでは?)
					ボランティアをやりたいという希望者はいる(口コミで広がる可能性あり)
					支えあい連絡会の中で病院に声かけのパンフを置くことになった
					声のかけ方にもコツがある (○は「奥さん」「旦那さん」×は「おじさん」「おばさん」)
					視線を合わせる, 次に挨拶, そして呼びかけ
					犬の散歩をしながら防犯パトロール(腕章付)
					町内会組織を利用しよう
					民生委員活動の情報を繋げる先がない
					自分の気持ちをなかなかうまく出せない所がある
				【コア(地域での活動の拠点)】(情報収集・発信, 活動を広めていくために)	
					地域の会合に参加できるときはする (地域に関係していくきっかけづくりとしても)
					チョボラのワッペン又は腕章の作成
					ワッペンを作ってもらおう(腕章)→区役所へ要望
					地域ケアプラザの機能をもっと宣伝する
					きっかけがうまく持てない

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
片倉3				ソフトとハードの両面でコアが必要だと考える
				ケアプラザにボランティアを配置してコーディネートする
				地区センターにコーディネートの機能があるとよい
みんなで考えるバリアフリー				
神奈川区の道路事情(行政への要望)				
			神奈川区は市内でも道路状況が悪い	道路への要望は声を出していくことが重要
			電動式車いすでの走行は傾斜12度が限界。自走式・介護式車いすでは10度が限界	行政に要望する道路に関する問題を整理しておく必要がある
きっかけが必要				
菅田1+2			宮向団地では入居者の高齢化、あちこちに傾斜があることから団地内の車いす体験を実施し、「車いす通行路マップ」を作成	有志でまずは実際の事例を作り上げることが必要
			ドリームハイツの自治会が団地内の車いす体験を実施したという話を聞いて、自治会に諮って実施した	まず体験すること
			その後、団地の管理組合管理者が変更になったりしたため、マップがうまく活かされていない	町内会と学校が連携して体験マップを作る
			まずは自治会役員からはじめ、じょじょに一般住民にも浸透していった。	
マップを作る前にすべきこと				
			高齢者の擬似体験によりバリアの問題を理解する	町内会の事業計画にバリア点検活動を盛り込む
			避難訓練のなかで車いす体験をしている地区もある	町内会役員等道路ボランティアによる道路の点検、清掃、私有物の撤去
			ベビーカーも大型化している。安全に通れる道を知っておきたい	学校で課外授業として車いす体験をしてもらい、マップの作成等地域と連携してもらう
				PTAの校外委員会と地域が連携。子どもたちに安全な通学路を確保していく

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)		
菅田 1 + 2	マップづくり		誰にも役立つマップを作る	バリアフリーマップを作ってみよう！そのため に皆で地域をあるいてみたい！		
			誰もが見たくなる楽しいマップを作る	バリアフリーマップでは安全な道、危険な道など 道路の色分けをするとわかりやすい		
			楽しい情報の中にバリアフリーの情報 も入れる	自宅周辺の危険箇所を点検し、情報提供する		
				町内マップを作り、公園や歩道の幅、バス停 にいすのある所、段差のある所などをチェック して「まちの散歩マップ」を作る		
				小単位のマップを作ってつなげていく		
				問題別に分断するのではなく、連携して解決策 を見つけていく		
				自治会で地域に配付する地図に内容を盛り 込む		
		作成したマップをどう使うか				
			多様な情報を入れないと使ってもらえ ないのでは	マップは必要な方に分けてあげたい		
			楽しめるマップでないため	回覧板、地区センターでの配布などの方法で 地域の人にPRする		
		隣近所・町内会で対応できることは何か				
			私有地は行政では対応できない	歩いて安全・危険箇所をチェックし、その情報 を隣近所に発信していく		
			障害者自身が動く	大切なことは町内会・隣近所で何回も話して いく		
			町内会の話し合いは議題が多く、簡 素化を目指している。深い話し合いを する時間の余裕はない	困っている人に手を貸す		
			町内会への加入は個人の自由。	困っている人には声をかけ、その人に合った お手伝いをする		
				困っている人が介助を依頼する		
		要望				
			安全な道路の整備			
			道路の途中に休憩場所を設ける			
			バリアに対応した車いすの研究・開発 の支援			
		高齢者の防犯・防災とプライバシーの問題 町会の役割				
		神北・ 神西・ 浦島丘 1	高齢者の防犯		防犯のための見回りについて	
				夜見回りをした。12月の一週間。町会 で一回500円出した	夜の見回りは今後はつきに1回ぐらい、役員に 無償でやってもらうなどするほうがよいので は。	
	斎藤分町では昼間防犯パトロールを している		緊急事態のときに備え対象者について行政か ら情報をもらいたい			
	警察との連携について					
	担当の交番がどこかわからない。		警察との連絡を密にしておいたほうがよい			
			担当の交番がどこかなど、町会でも知らせる 必要がある			

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)	
神北・神西・浦島丘1				交番の管轄がもっとわかるようにしていほしい	
			高齢者の防災とプライバシー問題、住民の把握		
			地域防災拠点について		
			われわれは大災害の経験がない。いざというときどうなるかは未知の部分	何かあって防災拠点に集まったとき、高齢者・障害者などの状況をチェックする必要がある	
			防災の日を決めて炊き出し訓練などをしたりしている	ただし、防災拠点に必ず集まらなければいけないわけではないので、把握が難しい面もある	
			防災拠点に集まる防災訓練をやったら、予想以上に人が集まった		
			災害時の高齢者・障害者などの把握と情報提供拒否について		
			一人暮らしの高齢者でも情報提供を拒否する人もいる	情報を教えたくない人は自己責任でやってもらうしかない。教えたくない人に無理に聞くことはできない。	
			何か「助けて」と言うことになったとき、その人のことがわからなかったりする	教えたくないと言う人に何かあったとき責任を問われたら「この人は情報を提供したくないと言っているの」と説明すると言う方法もある	
			情報提供を拒否する人でも何か起きると「町会は何をやっているんだ」といわれたりする		
			情報把握の方法について		
			団地の草取りを「参加すると300円あげる、不参加なら2000円払ってもらう」としている。ほとんどの人が参加してくれ、顔だけでも住民がわかってよい。	町会名簿を整備し、必要と申告した世帯に限り町会で手助けを指定校と言う案もある。	
			高齢者の防犯防災問題と町会の役割		
			町会を通しての地域のふれあい		
			集会所を活用する方法について	集会所を解放し高齢者が気軽に出入りできるようにするのがよいのでは(ただし、マッサージ器を置く試みをした町会もあるが、鍵の管理など大変で続けられなかったと言う例もある)	
			食事会は参加者が少なく、給食から配食に変更したところもある		
			デイサービスの利用者は地域の会に出なくなり、地域のふれあいが難しくなっている		
			これからの町会のありかた		
			町会のあり方が激変していて大変	今ある状況で何ができるのかを出していかないと皆がついてきてくれない	
			「民の力」でどこまでできるのか具体策を出していくのが難しい	各町会は規模が小さくお金もない。活動はほとんどがボランティア。連合会でやるなど、大きな団体で大きな財源でやっていくと言う方法もあるのでは	
			要望	行政から「こうするとよい」など、あり方を出してもらえるとやりやすい面もある。	

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
地域で考える高齢者の問題				
防犯灯 役所の対応に注文				
			防犯灯を誰が管理しているのか地域の人は知らない。(連絡先を伝えてあるが、ていねいに見てくれない)	住民によるパトロールは犯罪の抑止力にもなる
			町会では防犯灯の担当が決まっている	犬の散歩のときに飼い主が「防犯」の腕章・ベストなどをつければ効果がある
			横浜には「すぐやる課」がない	自転車のかごに防犯のマークをつけて走っているところもある。
			要望	防犯灯の設置が遅い。(6ヶ月かかった)
				電気代・修理代として町会が相当の金額を負担している。明るい町にするために、行政からの負担を増額して欲しい
				役所は担当がよく替わり、引継ぎが悪い
				交番に巡査がいない。警察から地域に情報提供するよう、行政から働きかけて欲しい
				地域には権限がない。権限のある人によるパトロールが必要
ゴミ出しはシステムの問題				
			ゴミ出しの問題はマナーだけでなくシステムの問題	家主・不動産屋などが入居者へルールを徹底させる。
			アパートの独身者はゴミ当番をやらない→家主の責任	
			ゴミ袋に個人名を書かせている地方もある(無責任なことではできなくなるが、プライバシーの問題もある。)	
			要望	家主・不動産屋などが入居者へルールを徹底させる。
				区役所で転入届を受理する時に、ゴミ出しについてのちらしを配付。
高齢者もマナーが悪い				
			高齢者の身勝手(何かもらえる時だけ手を挙げる人がいる)	若い人のことを言う前に、高齢者も自分の行動に責任をもつべき。
			高齢者のマナーがなっていない。(犬の放し飼い、糞の始末をしない、ゴミ出しのルールを守らない)	マナーの根本は教育、特に子どもの時の教育が大切。
			顔見知りの人だとルール違反をしても注意しにくい。知らない人の方が注意しやすい。	
「地域の住民」意識を育てたいが				
			「地域の住民」という意識がない	若い人が若い人向けの回覧を作成すればどうか→誰がやるか？
			回覧板は地域の情報伝達の唯一の手段だが、なかなか読んでもらえない。	回覧板を重要な情報順に並べて回している
				回覧板に見出しを付けている。
町会の活動にも限界がある				
			町会組織の規模の違い。大きい所は目が行き届かない。小さい所は地域がよくわかる。	町会の活動にも限界がある
			近い将来、住民の高齢化で広報を配ることもできなくなる	
			大きい町会では若い人も多いが、働いていて役員を引き受けてくれない。	

神北・神西・浦島丘2

グループ	テーマ	検討項目	検討内容	解決の方向(自分たちでできること)
神北・神西・浦島丘2			要望	広報や回覧物は行政が配る仕組みを作っていないと誰も配れなくなる。
			役所・民生委員・町内会の連携	
			高齢者の実態を知るため町会・民生委員など横の連絡が必要。	区役所・民生委員・町内会との連携で情報を把握。
				高齢者への対応は近所・両隣の協力が必要。ふれあい訪問で見守ること
				高齢者の方から声をかけてくれれば対応可能。
			情報の提供、説明をもっとすべき	
			あんしん電話について民生委員しか知らない。もっと区民に情報提供が必要。	
			行政から地域の高齢者についての情報がほしい→プライバシーの問題がありむずかしい。	
			介護保険についてよくわかっていない人がいる。	
			要望	介護保険の説明会をもっとやってほしい。
				行政は地域に対し情報の提供、説明をもっとすべき
			活動をまとめていこう行政の指導が必要	
			民生委員の訪問に抵抗がある人もいる。	
			ふれあい訪問しようとしても、民生委員以外は受け入れない人もいる	
			民生委員が不在の時、ふれあい訪問員が対応に困ることがある	
			民生委員、友愛活動推進員、保健活動推進員などのそれぞれの活動と、ふれあい訪問活動との関係が不明確	
			友愛活動推進員は訪問する側もされる側も高齢者。どういう訪問をすればいいのか迷う	
			要望	それぞれの活動をまとめていこう行政の指導が必要。
			ふれあい訪問などで対応に困った場合は、区役所に連絡を	

「元気で楽しく過ごすための地域の健康づくり」

この話し合いでは 問題解決システム「Uの木発想法」を用いて8人前後のグループワークを実施した。テーマについて思いつくことをおのおの意見を出し合い、類似した意見を分類することで9つの解決案を導き出した。

集約された意見と意見数

人との交流・ふれあいや仲間作りなどコミュニケーションをとることが大切で	47
健康のため・元気でいられるために運動をすること	42
趣味を持つ・学ぶ・旅行をすることなど自己充実が大切である	33
健康的な生活をする	18
元気でいるために楽しい・おいしい食事をする	16
さまざまなボランティアをすることで、ひいては自分も健康になれる	13
環境への配慮が必要である	5
前向きな考え方が必要である	4
他人への思いやりが大切である	1